

● 理事長メッセージで振り返る8年 ●

原子力産業協会という1956年から続く法人があります。原発に関連する企業や自治体が会員です。ここの理事長が福島原発事故後どんなメッセージを発信してきたのか？を追いながらこの8年を振り返ってましたが、2月に始めてから7ヶ月かかって一旦最終回。10回目、2018年夏から現在です。

2018年

安倍晋三
政権

9月26日 日本原電 東海第二発電所原子炉設置変更許可

● 東海第二発電所の 原子炉設置変更許可の決定にあたって

(参考資料②)

高橋明男 原産協会理事長

(参考資料①)

今回の許可は、沸騰水型原子炉(BWR)としては、柏崎刈羽原子力発電所 6、7号機に続くもので、これまでに得られた知見が今後の審査に活かされ、残る審査中のプラントの設置変更許可審査が進むことを期待したい。

11月 7日 日本原電 東海第二発電所運転期間延長認可

(参考資料③)

● 東海第二発電所の 運転期間延長認可の決定にあたって

高橋明男 原産協会理事長

(参考資料①)

これにより国内の原子力発電所で運転期間の延長が認可されたプラントは関西電力(株)高浜発電所 1、2号機、美浜発電所 3号機(何れも加圧水型原子炉)に続いて4基目、沸騰水型原子炉(BWR)としては初となった。

エネルギー基本計画では、原子力は長期的なエネルギー需給構造の安定性に寄与する重要なベースロード電源と位置づけられ、2030年のエネルギーミックスにおいて原子力発電は20-22%の電力量を担うとされている。その為には30基程度の運転が目安となるが、そのうち1/3程度の運転期間延長が必要となると思われる。

東海第二発電所の運転期間延長に関わる審査を通じて得られた知見が原子力事業者間で共有され、今後の延長認可申請および審査に活かされることを期待したい。

参考資料

- ①原産協会HP 提言の発信
<https://www.jaif.or.jp/category/message>
- ②日本原電HP 「東海第二発電所の新規規制基準への適合性確認審査に係る原子炉設置変更許可について」
<http://www.japc.co.jp/news/press/2018/pdf/300926.pdf>
- ③日本原電HP 「東海第二発電所の運転期間延長認可について」
<http://www.japc.co.jp/news/press/2018/pdf/301107.pdf>
- ④NUMO HP 「包括的技術報告書(レビュー版)の公表について」
<https://www.numo.or.jp/press/201818112114.html>
- ⑤東京電力HD HP 「3号機使用済燃料プールからの燃料取り出し」
<http://www.tepco.co.jp/decommission/progress/removal/unit3/index-j.html>

11月21日 原子力発電環境整備機構 (NUMO) 包括的技術報告書 (レビュー版) 公表

(参考資料④)

報告書名

「包括的技術報告：わが国における安全な地層処分の実現
—適切なサイトの選定に向けたセーフティケースの構築—」

作成目的

地層処分施設が建設可能と考えられる場所の調査をどのように進め、安全な処分場の設計・建設・操業・閉鎖を行い、閉鎖後の長期間にわたる安全性を確保しようとしているのかについて、これまでに蓄積されてきた科学的知見や技術を統合して包括的に説明

今後、日本原子力学会および国際機関にレビュー（批評）を依頼

11月22日 ● NUMOによる包括的技術報告書の公表にあたって

高橋明男 原産協会理事長

(参考資料①)

国およびNUMOには
国民ならびに自治体の理解が進むよう
引き続き努めていただくとともに、地層処分技術の
信頼性の更なる向上を図っていただくよう期待したい。

2019年

4月15日 福島第一原子力発電所 3号機の燃料取り出し開始

(参考資料⑤)

● 福島第一原子力発電所3号機の 燃料取り出し開始にあたって

高橋明男 原産協会理事長

(参考資料①)

厳しい作業環境下で、オペフロの線量低減工事、
燃料取り出し用カバー設置工事に取り組んだ作業チームには、
4月14日に内閣総理大臣感謝状が授与された。
これまでの困難な作業に対し、
その苦勞と功績が評価されたものとして敬意を表したい。
燃料取り出しはリスクの低減や、
地域、国民の皆さまの不安解消につながる大事な一歩である。
(中略) また、今回の知見、経験が活かされ、
次の1,2号機の燃料取り出し準備が進むことを期待したい。

最後に一言

原産協会理事長のメッセージは一貫して原発推進でした。

そして国民が選択した国会議員から選ばれている総理大臣は、
福島第一原発の作業チームに感謝状を出すくらいですから、その苦勞を十分理解してるはずなのに
「(憲法改正の) 議論をすべきではないかという国民の審判だったのだろう。
私の使命として、残された任期の中で当然挑んでいきたいと考えている」 (2019/7/21) とか言ってます。

(<https://digital.asahi.com/articles/ASM7P4D1HM7PUTFK002.html>)
そして、来年はオリンピック。。。やる順番がおかしいでしょ？

今も日本は「原子力緊急事態」中です。
今の日本がやるべきことが憲法改正やオリンピックなんかじゃないのは明白です。
福島第一で働いている人をみんな公務員にして将来を保障するくらいしないのがダメでしょう。
そこにどんだけお金がかかったとしてもしょうがないです。それだけの事故を起こした事実は決して
消えません。